

【習得している知識・技能等】

- ・伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くこと
- ・説明や具体例を根拠にして書くこと

本時の学習を通して育てたい力

- 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して説得力のある文書を書くことができる。

- ◇ 学年 第3学年
- ◇ 単元名 観察・分析して論じよう「売上アップ大作戦～説得力のある批評文を書こう～」
- ◇ 単元の目標
 - ・自分の立場や意見を明確にして批評する文章を書こうとする。(関・意・態)
 - ・論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある批評文を書くことができる。(書くこと イ)
 - ・和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し、語彙を豊かにすることができる。(伝・国イ(イ))
- ◇ 単元の展開(4時間目/全6時間)

次	時	主な学習活動	課題意識をもたせるポイント
一	1	・学習の見通しをもつ。 ・チョコレート会社の社員として新商品を売り出すとしたら、どのポスターを使うかを考えて「チョコレート」ポスターの批評文を書く。	単元導入で、課題意識を明確にもたせるとともに、自力で批評文を書かせることで、より説得力のある批評文を書きたいという意欲をもたせる。
二	4	・教科書をもとに説得力のある批評文の書き方を知る。 ・「マイボトル」についての批評文を書く。(2) ・「チョコレート」ポスターについての批評文を書く。(2)(本時1/2)	書く途中段階の交流を取り入れることにより、論理の展開や表現の仕方を工夫しようとする意欲を高める。
三	1	・互いの批評文を交流し、単元全体の学習を振り返る。	

【本時での活用とは】

教科書で学んだ説得力のある批評文のポイントを活用して、別のテーマで批評文を書く。

- ◇ 本時の目標 論理の展開を工夫して、説得力のある批評文を書くことができる。
- ◇ 学習の流れ(4時間目/全6時間)

学習活動	指導上の留意事項(◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 課題意識をもたせる。	◇単元全体を見通させ、チョコレート会社の社員として、販売促進のために説得力のある批評文を書くという目的を確認する。	
2 前時の振り返りをする。	◇チョコレートを売るために、大切だと思う観点(公正、高級感、健康)をもとに再度ポスターを選ばせる。	
3 本時のめあてを確認する。	◇説得力のある批評文に必要なポイントを確認する。※(結論が明確、具体的な根拠を引用、選ばなかった理由の提示など。)	
自分の意見と根拠、理由を明らかにして、説得力のある批評文を書こう。		
4 自分の批評文に必要な内容をメモする。	◇自分の主張、根拠となる新聞等からの事実、観点到らして選んだポスターがよい理由及び他のポスターがよくない理由をメモさせる。	
5 批評文を書く。	◇メモをもとに、前時に書いた「マイボトル」の批評文を参考にしながら書かせる。 ◇ポイント(※)を視点に、グループごとに互いに批評文を読みあい、アドバイスをしあう。	
6 途中でグループ交流する。		<p>記述の途中でも交流をさせましょう。</p> <p>★書き終わった段階ばかりでなく、記述の途中で交流することで、交流の必然性が生まれます。 その際、本時の目標に照らして、交流する視点を明確に示すことが大切です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・Aさんの文は、最初に自分の主張をはっきり書いているからすごく説得力があるね。 ・Bくんはなぜ②を選ばなかった理由を書いていないの？ ・①のよさは書けたけど、②の欠点が見つからないんだ。 ・Bくんは「健康」が大切だと思うから①を選んだんだよね。だったら②では健康につながるよさが伝わってこないことを書けばいいんじゃないかな。 		
7 グループ交流を生かして批評文を書く。	◇修正は赤ペンで行わせる。 ◆批評文の型、見直すチェックポイント等をヒントカードとして用意しておき、生徒に選んで使わせる。	
8 第一次で書いた批評文と比較してまとめを書く。	<p>生徒のまとめ例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明確な結論、具体的な根拠の引用、選ばなかった理由を書くことで、初めて書いた時より説得力のある批評文を書くことができた。 	<p>・結論や根拠が明確に示された批評文を書いている。〔書く能力〕(批評文)</p>
9 本時を振り返り、次時につなげる。	◇次時は、批評文を完成させることを確認する。	